

2015 年度前期 授業評価アンケート結果に対するコメント

—社会イノベーション研究科—

社会イノベーション研究科長 篠原光伸

2015 年度前期における大学院の授業評価結果の全体像については、「総合評価」が 4.83、「この分野の関心と学力が得られた」が 4.73 という高得点であり、しかもその分布範囲もそれぞれ狭いことから、受講生全体からは非常に高い評価を得ているといえる。大学院の講義はどれも少人数で行われるために院生の満足度および教育効果は高いと考えている。しかし教員側の努力に関する項目については概ね高い評価となっているが、学生側の努力に関する項目である「出席率」、「取り組み意欲」、「予習・復習」については、自己反省の意味もあるのか、同程度の高い評価とはなっていない。特に、「予習・復習」については昨年度と同様に、4.33 と評価が最も低くなっている。院生は学部生とは違いただ講義に出席していれば良いというわけではない。必ず予習を行って講義に臨まなければ講義自体の意味がないことを良く理解して欲しい。また教員については、一部の教員で遅刻、休講が多いという院生からの指摘を受けており、この点は教員側が深く自戒し、補講等で補う必要がある。